

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
 (社会的な要請に対応できる看護師の養成)
 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

		テーマ	2
代表校名 (連携校名)	京都府立医科大学		
事業名	Project KPUM -重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト-		
事業責任者	教授 毛利貴子		
事業の概要			
<p>本事業は、京都府立医科大学、附属病院、看護実践キャリア開発センターが一体となり、高度なクリティカルケアの看護実践能力を有する看護師養成およびネットワーク構築を目指す二段階のプログラムである。【目的】①高度なクリティカルケア実践能力をもち、医療ひっ迫時に派遣要請に対応できる看護師を養成する。②京都府下から広く受講者を募りプロジェクトを通じて看護師間・組織間のネットワークを構築する。③認定看護師、専門看護師、特定行為看護師につながるよう受講生のキャリア形成を支援する。【対象】京都府下の医療機関に勤務する臨床経験3年目以上の看護師【内容】当プログラムは、成人系と小児系のクリティカルケアを学ぶコースを設定する。Step1:e-learning、Step2:On the Job Training (以下OJT)、Step3(研修修了後)：京都府クリティカルケアナースネットワーク(仮称)の構築、情報交換や後進育成にあたる。</p> <p>本事業により、京都府下で急性期医療に従事する看護師のレベルアップと施設間連携が期待でき、新興感染症の流行、大規模自然災害、超高齢化・人口急減による急性期医療ニーズの変化に対応することが可能となる。また、京都府で唯一PICUを擁する医療機関として、小児救急医療・看護の発展に大きく寄与することができる。</p>			
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○全体構想はクリティカルケアに重点を置いており、高度な医療対応能力を持つ看護師を養成することで、地域社会の医療ニーズに効果的に応えることができ、更に北部医療センターを活用して、京都府全体に広がるような活動を期待したい。</p> <p>○多人数の看護師を必要とする状況に対応する構想であり、小児領域での高い専門性、自組織の機運を含め、強みを総合的に活かすとともに地域社会への貢献が明確に組み込まれており非常に優れている。</p> <p>○組織体制の重厚さ、準備状況、明確な評価体制は、安定性と博識性、社会貢献の方向に効果が高いと期待できる。プログラム評価の方針及び体制が明確であり、評価できる。</p> <p>○研修を受けて知識と技術を身につけるとのことだが、定着させるには「しかけ」が必要であり、看護実践キャリア開発センターが主となっている点が効果的である。継続して現場のネットワークを築いていくことが期待できる。</p> <p>●重症者等を扱う技術や能力を落とすことなく持ち続け、さらにそれを周囲にも展開していけるような体制整備を期待する。</p> <p>●具体的な新規性や革新的な教育手法の展開が不足しているため、プログラムの差別化が不明瞭。</p> <p>●運営体制の中で具体的な危機管理プロトコルの記述が欠けており、予期せぬ事態への対応策が明記されているとなおよい。</p> <p>●成果の具体的な普及手段や具体的な普及指標が十分に設定されておらず、プログラムの可測性が低い。</p>			